

7—1 日記(明治十七年二月～明治二十一年七月)

(朱書)

明治十七年

二月

十七日

亡父君一週忌ニ付来客

(トイ)

本宿お直并お清内山お福并お久、邦、那珂通世同お  
貞豊川痴癡雄太田時敏一条基緒家内ハ柏井放心、武  
夫、おるち并波 道又金吾横田末次郎本宿宅命ハ断  
リ

料理ハ日本橋区元大工町中安菓子ハ風月堂

三月

廿六日

午后一時女子出生 慣ヌ胃ノ中ヘマクリ様ナル薬  
入タルタメ吐瀉シタリ原ノ診察ヲ受タルニ心配ナキ  
旨ナリ

廿八日

工藤則勝ヲ経テ国許ヨリ左ノ公債証書届タリ  
百円 丙添号四卷七六番  
同 号四卷七七番

廿九日

同上ノ公債証書ヘ東京府ノ検印ヲ受ヨリ右届書ノ  
文例左ノ如シ

公債証書携帯御届

一金禄公債証書……円(總額)

此券何枚

内訳

一何円 何号 何番

(抹消) [明治十七年]

右証書拙者所有之所東京府小石川区表町六拾番地  
へ寄留致候ニ付岩手県へ所轄替願置携帯仕候間此  
段御届仕候也

小石川区云々

年月日

岩手県土族 菊池武夫 印実

東京府知事芳川顕正殿

右届書ヲ差出セハ即日証書ヘ検印ヲ押呉ルナリ

四月

十日

舅柏井放心胃痛ニテ死去シタリ朝七時ナリシ

(抹消) 十日

二女貞ノ七夜相当ニ付客来(タ)〔ア〕ルヘキ所昨  
夜来ノ風雨ニテ皆断ハリト成本宿直真鍋波ノミナ  
リシ

舅柏井放心ノ撰ニテ貞ト名付タリ

(抹消) 十日

右ニ付左ノ人々ヨリ誕生祝物到来セリ

那珂通世 真鍋 雪 高木 録 本宿宅

命 西川鉄二郎 岡村輝彦 木下広次

河上謹一 島田善孝 車屋

十日

二女貞ノ誕生届ヲナシタリ書式左ノ如シ

小石川区表町六拾番地寄留

岩手県土族菊池武夫 二女

菊池 貞

右貞儀明治十七年三月廿六日出生仕候間此段御

届申候也

明治十七年四月十日

菊池武夫 ㊦

小石川区々長加藤治幹殿

十二日 故放心ヲ染井墓地へ埋葬ス

九月

廿二日 藤田お三輪様昨夜御病死ノ旨国許ヨリ電報アリタ

リ

十一日 司法少書記官ニ任セラル同日司法省ニ於テ記録局

翻訳課兼民法局詰命セラル

廿七日 東京大学法学部学生教導嘱托セラル

十月

二十日 叙従六位

(ママ) 十月

二十一日 司法省ニ於テ訴訟規則取調委員ヲ命セラル

廿九日 笹ノ誕生ヲ祝ヒタリ来客左ノ通り

那珂通世夫婦并ミヨ 那珂通文夫婦并母 芦野

春母 上田農夫

十二月

十六日 祖母様兼テ御病氣ノ所今午前十時御死去被遊タル

旨午后四時頃電報到来セリ右ニ付本宿那珂太田島田

并真鍋へ為知タリ

右ニ付香奠其他見舞ヲ贈タル人々左ノ通

一金巻円 那珂通世 一同 上 新渡戸七郎

一同 前 本宿宅命 一金巻円卅銭

一西洋臘蝸(ママ) 藤村 胖 一西洋干菓子一条忠郎

一蒸菓子 一条基緒 一榴柑一箱 那珂通文

廿三日 左ノ公債証書ヲ一条忠郎へ貸但シ他へ抵当ニ入儀

不苦旨ノ委任状ヲ添遣ハン(抹消)手前ニハ借用証書

取置ケリ

一丙込号 四七七六番 百円

一同上号 四七七七番 百円

借用証書ニハ何時タリ任入用ノ節返却スル旨記シ

アリ

廿六日 国許ヨリ小野善助ヨリ小野商会ニ宛タル送金手形

到達センニ付小野商会へ持参セン所三井銀行宛ノ

(抹消)振出切手ヲ出セリ依テ三井銀行ヨリ手形面ノ金

額参百円ヲ請取り盛岡第九十銀行へ年三朱ノ利ニテ

当座預ケトナシタリ

廿八日 東京出發神奈川ヨリ人力車ニテ小田原へ着翌日旅

籠ニテ箱根ヲ險三島ヨリ元吉原迄馬車夫ヨリ人力車

ニテ興津へ着

明治十七年十二月

卅日 舟ニテ三保へ渡り徒歩ニテ根小屋村ニ至リ九能山

ナル徳川家康ノ廟ヲ觀又徒歩ニテ静岡ニ出同所ヨリ

人力車ニテ由比ニ着

卅一日 人力車ニテ元吉原ニ至リ馬車ニテ三島ニ達シ同所

ヨリ旅籠ニテ豆州熱海鱗屋へ着

〔本宿お直勝五郎清  
内山福道又金吾〕

明治十八年

(朱書)

一月

五日

人力車ニテ熱海ヲ発シ松井直吉同道ニテ小田原ニ至リ同所ヨリ馬車ニテ神奈川へ着八時ノ蒸気車ニ乗  
(加筆)  
込(夜)十時過帰宅

二月

廿八日

本郷貯金預所へ預ケ金ヲナシ左ノ番号ノ通帳ヲ請取タリ

いよ〇二四一〇

但し表紙ノ左(抹消)端ノ下ニ第十一号ト記シアリ

四月

十日

翻訳課長代理ヲ命セラル

三月

十二日

金百円根子久平へ預ク但利子ハ日歩式錢五リノ約東何時ニテモ返済ノ積リ(後日歩三厘ニ改ム証書アリ)

五月

八日

妹すみ盛岡ヨリ着  
東京大学ヨリ(加筆)〔法学部〕講師ノ任ヲ嘱スル旨達セラ

ル但シ右ハ昨年九月廿七日法学部学生教導嘱託ノ命

アリタル時渡スヘキノ処漏レタルニ因リ只今書付ヲ渡ス旨添書アリタリ

七月

七日 判事登用試験委員ヲ命セラル

八月

十九日

西河岸第九十銀行へ当座トシテ七月廿八日ト八月十七日ノ兩度ニ預ケ置タル七百円(内五百円ハ草文小判売払代二百円ハ国許ヨリ送り金)ヲ六ヶ月ノ定期預ケトシタリ但シ当座預ケ中ハ利子年五分此度ハ年(抹消)六七分ノ約定ナリ(310ヲ見ヨ)

廿五日

午前八時ノ蒸気車ニテ新橋ヲ発シ神奈川駅成駒屋ノ馬車ニ乗リ藤沢駅昼食ニテ五時過頃三枚橋ニ着夫ヨリ荷物ヲ持セ歩ミテ湯本宿福住九藏方ニ至タル所部屋ナキニ付又歩ムヲ五六丁ニシテ塔ノ沢ナル鈴木善左衛門方ニ着(抹消)〔六〕七時頃ナリシ

卅日

午前七時頃鈴木方ヲ出湯本迄歩ミ東京大学ノ生徒等同道ニテ八時頃湯本ヨリ(加筆)〔七〕円ニテ買切タル二頭立ノ馬車ニ乗リ藤沢駅昼食ニテ午后四時半少シ過神奈川駅ニ着四時四十五分ノ蒸気車ニテ新橋着九時頃帰宅 馬車賃片道湯本迄八十二錢ナリ

九月

九日

先月十七日西河岸盛岡第九拾銀行ノ手ヲ経テ堀江兵三ヨリ買受タル第二回発行日本鉄道会社株(抹消)〔券〕数五株券(受)収三枚今日名前書換済タリ其券状ノ番号

左ノ如シ

- 一乙第九式五号 式株分 一枚
  - 一乙第九式六号 式株分 一枚
  - 一甲第七八号号 壹株分 一枚
- 三枚ニテ五株

十月

廿五日 夜九時頃母君多き波董并啓陸路岡ヨリ着

十一月

二日 国許ヨリ到来ノ第一国立銀行送金手形二枚(二百

円一枚百円一枚)ヲ第九十銀行支店ニテ金ト引換即日七十円請取(209ヲ見ヨ)残金貳百参拾円ヲ年七歩ノ割ニテ当座預ケトナシ証書取置タリ(310ヲ見ヨ)

因ニ云フ八月十九日定期預ケトナシタル七百円ノ利子モ本店ノ命ニ依リ年七歩ニ改メタルヨシ申聞ケタリ(六丁九月ノ部ヲ見ヨ)

十二月

廿五日 坂ノ上長家地面売渡代価八拾円ノ内前金五十円第

一銀行為替券ニテ山本縁ヨリ送り来リ第九十銀行支店ニテ引換同店へ当座預ケトナシタリ利子八年七歩ノ割ナリ (310ヲ見ヨ)

明治十九年

一月

(朱書)  
〔二十日 民事局詰命セラル〕

二月

(朱書) 〔廿六日 午後二時第三女誕生はまト名付母君ノ撰ニ係ル〕

三月

(朱書) 〔六日 司法大臣秘書官ニ任セラル〕

四月

(朱書) 〔十日 奏任官二等ニ叙セラル〕

十四日 下級俸下賜セラル

〃 秘書官諸費トシテ一ヶ月三拾五円給与スル旨ノ達ヲ受ク

一日 全日ヨリ第九十銀行預ケ金利子八年四歩ニ引下ル

旨通知アリタリ

十九日 判事会同理事員ヲ命セラル

二十二日 民法草按編纂委員ヲ命セル (マア)

五月

(朱書) 〔十日 第九十銀行支店へ金貳百円当座預ケトナシタリ〕

(309)ヲ見ヨ(但司法省ヨリ受タル給金ノ内ナリ)

七月

(朱書) 〔八日 第九十銀行西河岸支店へ金貳百円当座預ケトナシタリ(309) (但国許ヨリ米売払代貳百五十円上セタル中ナリ)〕

全上 正六位ニ叙セラル

八月

(朱書) 〔一日 ぬちハ笹貞浜波澄ため菊太田時敏同伴シテ朝六時三十五分ノ汽車ニテ新橋ヲ発シ七時半頃借切ノ馬車〕

ニ乗り神奈川駅出発同日午後三時半箱根塔ノ沢鈴木善左エ門方着おゑき薫啓曆表町へ引越シタリ

五日 司法省ヨリ請取タル給金ノ中三百円第九十銀行西

河岸支店へ当座預ケト為シタリ(309)

六日 豊川ヨシ分宛近付タル為母君豊川へ赴ク

八日 新橋発一番汽車ニテ塔ノ沢へ赴ク午後三時鈴木善

左衛門方一同無事浴湯ニテ安堵セリ

十七日 司法大臣ヨリ至急帰京ノ電報到来直様塔ノ沢発ノ

馬車ニ乗込午後三時頃神奈川着四時ノ車ニテ新橋着

富士見軒ニテ晩食ヲ調ヒ山田大臣ノ邸ニ至ル長崎表

支那水兵暴行一條ニ付帰京ヲ命シタル趣承ハル

二十二日 七月分米売払代金ノ内百円第九十銀行為替券ニ

テ山本縁ヨリ送り来レリ(216)

十一日 判事登用試験委員ヲ命セラル

十月

十二日 訴訟法英訳賃トシテ三百八拾七円四拾六錢請取タ

ル内三百六拾円ヲ第九十銀行西河支店へ当座預ケト

ナシ(309)残高二拾七円四拾錢ヲ当用口入ノ部ニ加エ

タリ(222)

十一月

年俸并司法省無尽当リ金ノ内四百七拾円ヲ第九十

銀行西河支店へ当座預ケトナシタリ(309 & 222)

十二月

小石川表町六拾番地々所家屋ヲ九百五十円ニテ小

笠原静へ売渡ス

四日 邸宅地売却代価ノ内八百八十円第九十銀行西河岸

支店へ当座預ケト為シタリ(306 & 223)

一日 太田稻造へ(抹消)八月廿八日百円貸シタル残金百

五拾八円為替ニテ貸シタリ右ニテ米国金貨二百弗ヲ

貸シタル割合ナリ(289 & 43 & 48)

十日 飯田町三丁目拾五番地中山利愛邸七拾六坪月廿五

円ニテ借受引移リタリ但家賃ハ内実司法省会計局ヨ

リ出ス積リナリ

十六日 亡祖母喜世様三回忌ニ付法事當ミ当日来客ハ本宿

宅命并母横田千勢、亀豊川由、福太田時敏沢田忠兵

衛亭主ハ母君武夫のちゑき波澄子供等ナリ豊川知癡

雄内山福ハ断リ右ニ付料理ハ(抹消)元大工町中安ニ詔

ニ引菓子共ニテ一人前一円五拾錢ナリ

廿九日 官制改革ノ際ヨリ勉勵ニ付月俸半額下賜セラル即

チ金八拾三円三十三錢三厘ナリ(223)

三十日 午後一時馬車ニテ兩國ヲ発シ藤田隆三郎松野貞一

郎馬場愿治同道ニテ舟橋ニ到リ馬車ヲ繰替九時頃下

総佐倉へ着

卅一日 朝九時頃歩テ佐倉ヲ発シ酒々井ヨリ人力車ニテ宗

吾神社ヲ廻リ十一時半頃成田町梅屋ニ着午後三時人

力車ニテ源田へ五時過着川蒸汽船ニテ八時頃佐原ニ

到リ歩行半里許リ佐原町江戸屋久兵衛方止宿

明治廿年

一月

(朱書)  
一日

朝徒歩ニテ香取神社ニ至リ又歩テ津ノ宮ニ出テ人力車ヲ僦ヒ雲式佐原屋ニテ昼食午後五時過銚子ニ止宿

二日

朝八時人力車ニテ発シ太田ニテ昼食八日市場ヲ經テ晚六時頃横芝角屋ニ止宿

三日

朝六時頃出立人力ニテ東金ニ到馬車ニテ十二時千葉町ニ着午後三時過馬車ニテ千葉ヲ発シ六時半頃東京兩國福井ニ着九時頃帰宅

三月

(朱書)  
廿九日

整理公債証書額面式千円ヲ式千円ニ申込ミ昨年十一月十五日ニ保証金トシテ式百円今年二月廿四日ニ残額七分ノ一即チ二百六拾円本日其残額千五百四十円払込ハ号証書額面五百円式枚及同号百円拾枚引渡シテ受タリ何レモ自分記名ナリ其番号左ノ如シ

五百円 式枚

(加筆・墨書)  
ハ号第四七六号

(加筆・墨書)  
ハ号第四七六号

百円 拾枚

(加筆・墨書)  
ハ号第式四九五ヨリ

(加筆・墨書)  
ハ号第式五〇四ニ至

(ママ)  
廿九日

右払込ノ為メ預ケ金銭高千六百四十式円巻銭ノ内ヨリ千五百四十円日本銀行へ払残高百式円巻銭ヲ新

預リ証書ニ認メ第九十銀行西河岸支店ヨリ請取タリ  
尤今日ノ日附ナリ

七月

廿日

盛岡ヨリ為登金式百円第九十銀行西河岸支店ニ預ク

八月

八日

司法大臣山田伯ニ随行シ朝五時半上野発ノ汽車ニ乗リ九時宇都宮(抹消・加筆)〔ニ着〕始審裁判所新築ノ模様ヲ檢視ス此行伯ノ夫人母堂福原東京控訴院書記官同道ナリ同所て能字ト云フ茶店ニテ昼食午後一時頃栃木県書記官梅田義信モ加ハリ六時頃日光町神山ト云フ旅人宿ニ着宇都宮ヨリ里程九里ト云フ

九日

朝六時半頃山旅籠ニ乗り日光廟ニ詣宝物并拝殿東照宮ノ廟ヲ拝観シ了テ大日堂華嚴ノ滝ヲ経テ中禅寺ニ昼食英人カークウード氏ノ屋根船ニ乗り湖水ヲ涉リ菖蒲カ浜ニ上陸又旅籠ニテ戦場カ原湯滝ヲ経テ湯本村ニ着里程総テ六里

十日

朝七時頃湯本ヲ出立同シ道ヲ戻リ又中禅寺ニ昼食シ觀音堂ニ詣裏見カ滝ヲ経テ日光町ニ達シ朝陽館ニ於テ樺山栃木県知事ノ馳走ヲ受後チ前ノ旅人宿神山ニ一泊

十一日

山田夫人并母堂ハ霧降ノ滝家光公ノ廟ヲ見東京ニ帰ルカ為メ朝六時先発大臣ノ一行ハ知事宇都宮始審裁判所長天野正世ニテ今市ヨリ左ニ折小百村ヨリ馬ニ騎リ(ママ)瀨尾村ヲ經小休戸村ニ一泊今市ヨリ里程六里

十二日

馬ニ跨リ老里半ノ峻坂ヲ上リ大笹嶺ニ至リ再ヒ小休戸

ヲ経テ今市ニ一泊

十三日 八時頃今市ヲ出〔午後〕鹿沼ニ昼食上都賀郡役所ニ至リ

午後三時頃栃木支庁ヲ視鯉保ニ於テ裁判所連ノ饗応ヲ受

同家ニ一泊里程十一里

十四日 七時栃木町下都賀郡役所ニ立寄佐野ニ至リ〔郡役〕〔新

田〕安蘇郡役所ニ小休夫ヨリ町端苦楽郡ニ於テ佐野人民

ノ饗応ヲ受午後二時頃足利ニ至リ足利学校及前奈寺ノ古

書古物ヲ観織物講習所ヲ一覽シ相模屋ニ一泊知事ノ馳走

アリ

十五日 新田郡役所太田治安裁判所ヲ〔経テ〕熊谷支庁ヲ観テ庁

員ノ饗応ヲ受荒川ニ出鶴飼ヲ見六時四十分ノ汽車ニ乗リ

九時帰京

廿三日 山田司法大臣随扈トシテ上野発一番汽車ニ乗リ郡山駅

ニテ下リ馬車ニテ福島ニ着

廿四日 荷物車ニ乗リ仙台迄未開鉄道ヲ走り仙台ニ一泊

廿五日 人力車ニテ塩釜ニ至リ小蒸氣ニテ運河ヲ経石ノ巻ニ着

同所ニ一泊

廿六日 渡波ヨリ小舟ニ乗リ一里許陸行女川湾ヲ一覽又渡ノ波

ニ帰リ昼食小蒸氣船ニテ萩ノ沢ニ着夜半相模丸ニ乗船ス

廿八日 箱館ニ着浅田ニ止宿翌日才判所ヲ巡視し湯ノ川ニ入浴

シテ帰函

〔廿九〕卅日 馬車ニテ江着ニ着

〔九月〕

一日 根室丸ニテ出帆小樽ニ着直ニ氣車ニテ札幌へ向五時頃

着

二日 偕樂園ニ宿泊南部人懇親会ニ臨ム

三日 才判所北海道庁ヨリ篠路山田大臣ノ開懇地ニ廻リ帰園

ス

四日 幌内炭礦迄氣車ニ乗リ夫ヨリ馬ニ跨リ樺戸集治檻ニ昼

食帰路空知集治檻ニ立寄日暮帰園ス

五日 氣車ニテ小樽ニ至リ蒸氣船ニテ夜半出帆

〔小樽〕増毛ニ一泊

六日 馬ニテ〔小樽〕増毛ヲ発シ留萌鬼鹿ヲ経テ苫前ニ一泊

七日 大塩ニ一泊 九日 稚内 十日 宗谷ヲ経テ猿払 十

一日 枝幸〔ヲ経テ〕十二日 幌内々々ハ札幌根室両方半所

ノ管轄境ナリ 十三日十四日 紋別風雨ノ為一日滞留昨

今ノ兩夜蝦夷躍ヲ見ル 〔四〕五日 湧別 〔五〕六日

ノトロ山道アリ鉛沸ヲ経テ網走 十七日 斜里此間斜里

山道アリ 十八日 標別

十九日 西別ヲ経テ根室ニ着本町柳田藤吉方止宿此日戸田文七

来ル翌日屯田本部ヲ一覽戸田宅ニ招カル〔廿一日〕夜半乘

〔船〕

〔廿二〕一日 陸奥丸ニテ根室ヲ発シ厚岸ニ着風波ノ為一日滞留

小舟ニテ蠣島ニ赴蠣ヲ食味美ナリ廿三日夜半乗船

〔廿四〕五日 初夜箱館ニ着浅田ニ泊廿六日夜半新瀉丸ニ乗船

廿九日 午十二時横濱着一時半横濱発ノ汽車ニテ帰京

十月

一日 丙泳号四卷七六番同号四卷七七番ノ金禄公債証書当籤



ニ付無記名整理公債証書以号第四四六〇八番同号第四四六〇九番ノ百円式枚ニ交換シタリ新旧証書ノ利子十二円余請取タリ

十二日 妹波群馬県平民前橋南曲輪町住高瀬四郎ト東京上野広

小路松源亭ニ於テ結婚ス

三十日 芝公園内紅葉館ニ於テ波里婦ノ祝宴ヲ開ク来客ハ

本宿夫婦并母 横田末次郎并祖母 内山夫婦 豊川

夫婦 媒酌平佐是純并妻 関彰并妻 塩原謙蔵 原

亮三郎ノ妻 柏井登 那珂通世 真鍋波 亭主武夫

猪智母恵機澄

入費七拾円

十二月

四日 国許ヨリ金貳百円到着内百円第九十銀行西河岸支店ヘ

当座預ケト為ス(朱書)  
(234 & 308)

明治廿一年

三月

廿八日 国許ヨリ米五拾駄代ノ内百三十五円第九十銀行為換ニ

テ到着

七月

十六日 国許ヨリ米百三拾式駄片馬壳却代金參百六拾九円六十

七錢五リノ内三百四十円第九拾国立銀行為替券ニテ到着

(卷駄式円七九替)

(朱書)

留学仕末

明治八年十月 ポストン府ポストン大学法学部へ入学

同 十年 同学卒業法学士ノ称号ヲ享

同年十月ヨリ翌十一年(抹消)月迄橋同学へ通学

同十一年十月ヨリ実務見習ノ為ポストン上等裁判所へ出入

シ法学ヲ自修ス

同十三年十月廿一日英仏兩國ヲ経テ帰朝

(朱書)

(抹消)  
〔履歴〕辞令書写

一号

岩手県士族

菊池長閑長男

菊池 武夫

二十一年

法学為修業米国留学可致候事

但留学年数満五ケ年トス米国到着ノ日ヨリ年限中学

資貸渡候事

明治八年七月十日

文部大輔 田中不二麿

二号	雇申付候事 但月俸百円給与 明治十三年十一月廿五日 司法省	菊池武夫
三号	民事局詰ヲ命シ候事 明治十三年十一月廿五日 司法省	菊池武夫
四号	代理人試験委員ヲ命シ候事 明治十四年二月二日 司法省	菊池武夫
五号	本年後期代理人試験委員ヲ命シ候事 明治十四年八月二日 司法省	姓名

六号	第三局詰雇 第八局詰兼務ヲ命シ候事 司法省	菊池武夫
七号	東京大学雇兼勤申付候事 但手当一ヶ年金四百八拾円給与候事 明治十四年十二月二十六日 東京大学	姓名
八号	法学部講師可相勤事 明治十四年十二月二十六日 東京大学	東京大学雇 姓名
九号	本年前期代理人試験委員ヲ命シ候事 明治十五年二月六日 司法省	姓名

十号

雇

姓名

本年後期代言人試験委員ヲ命シ候事  
明治十五年七月四日

司法省

十一号

東大大学雇

菊池武夫

自今一ケ年手当金六百円給与候事  
明治十五年七月十八日

東大大学

十二号

法学部講師東大大学雇

姓名

諮詢部会ノ会員ニ選挙候事  
明治十五年十一月十八日

東大大学総理加藤弘之

十三号

雇

姓名

明治十六年前期代言人試験委員ヲ命シ候事  
(抹消)  
明治十六年十二月六日

司法省

十四号

雇

姓名

第一局詰兼第三局詰ヲ命シ候事  
明治十七年六月十六日

司法省

十五号

姓名

任司法少書記官

太政大臣従一位大勲位公爵三条実美宣  
内閣大書記官従五位勲五等作間一介奉

明治十七年九月十一日

十六号

少書記官

姓名

(抹消)  
記録局(詰)翻訳課詰兼民法局詰ヲ命シ候事  
明治十七年九月十一日

司法卿 山田頌義

十七号

司法少書記官

姓名

法学部学生教導嘱託候事  
但右嘱託中手当トシテ尠ケ年金六百円交付候事  
明治十七年九月廿七日

東大大学

十八号

叙従六位

太政大臣従一位大勲位公爵三条実美宣

内閣大書記(官脱カ)従五位勲五等金井之恭奉

明治十七年十月二十日

十九号

少書記官 姓 名

訴訟規則取調委員ヲ命シ候事

明治十七年十月廿一日

司法卿 山田顯義

廿号

少書記官 姓 名

翻譯課長少書記官栗塚省吾不在中代理ヲ命シ候事

明治十八年四月十日

司法卿伯爵山田顯義

廿一号

法学部学生教導囑託

姓 名

法学部講師ノ任ヲ囑シ候事

明治十八年五月八日

東京大学

廿二号

少書記官 姓 名

判事登用試験委員ヲ命シ候事

明治十八年七月七日

司法卿伯爵山田顯義

明治十九年

廿三号 (朱書)

少書記官 姓 名

民事局詰ヲ命シ候事

明治十九年一月二十日

司法大臣伯爵山田顯義

廿四号

從六位 姓 名

任司法大臣秘書官

内閣総理大臣従三位勲一等伯爵伊藤博文宣

内閣書記官長従四位勲二等田中光顯奉

明治十九年三月六日

廿五号

司法大臣秘書官従六位 姓 名

叙奏任官二等

内閣総理大臣従三位勲一等伯爵伊藤博文宣

明治十九年(抹消)四月十日

廿六号

大臣秘書官 姓 名

下級俸下賜

明治十九年四月十四日

司 法 省

廿七号 秘書官 姓名

秘書官諸費トシテ一ヶ月金三拾五円給与ス

明治十九年四月十四日

司法大臣伯爵山田顯義

第廿八号 秘書官 姓名

判事会同理事員ヲ命ス

明治十九年四月十九日

司法大臣伯爵山田顯義

第廿九号 秘書官 姓名

民法草按編纂委員ヲ命ス

明治十九年四月二十二日

司法大臣伯爵山田顯義

第三十号 従六位 姓名

叙正六位

内閣総理大臣従三位勲一等伯爵伊藤博文宣

明治十九年七月八日

第三十一号 秘書官 姓名

判事登用試験委員ヲ命ス

明治十九年八月十一日

司法大臣伯爵山田顯義

第三十二号

官制改革ノ際ヨリ引統異常勉勵候ニ付月俸半額下賜

明治十九年十二月二十九日

司法大臣伯爵山田顯義

(一六枚ヨリツ、ク)

(二一枚目ヘツ、ク)

第三十三号 秘書官 姓名

檢察官会同理事員ヲ命ス

明治二十年三月廿三日

司法大臣伯爵山田顯義

第三十四号 司法大臣秘書官 姓名

北海道及羽後国為巡視出張候ニ付随行ヲ命ス

同年八月二十日

官爵山田顯義

第三十五号 官 姓名

司法省文官普通試験委員ヲ命ス

同年十一月廿五日

司法大臣伯爵山田顯義

第三十六号 官 姓名

中級俸下賜

同年十二月廿七日 司法省

(次葉ヘツク)

第三七号

総務局文書課長兼務ヲ命ス

官 姓 名

明治廿年十二月廿七日 官爵山田顯義

第三八号

明治廿一年代言出願人試験委員ヲ命ス

官 姓 名

明治廿一年一月廿三日 官爵山田顯義

第三九号

裁判官会同理事員ヲ命ス

官 姓 名

同年三月二日

官爵山田顯義

第四〇号 学位記

岩手県土族

正六位 姓 名

明治二十年勅令第十三号学位令第三条ニ依リ茲ニ法学博士

ノ学位ヲ授ク

同年五月七日

文部大臣從二位勲一等子爵森有礼

第四一号

御用有之上州草津エ出張ヲ命ス

官 学位 姓 名

同年七月五日

官爵山田顯義

第四二号

官 学位 姓 名

自今秘書官諸費トシテ一ヶ月金六拾円給与ス

同年四月廿七日

官爵山田顯義

(朱書)

(抹消) (自分) 誕生年月日

嘉永七<sup>甲</sup> 寅年七月廿八日 誕生

文久元<sup>辛</sup> 酉年七月六日 全上

明治十五<sup>壬</sup> 午年十月廿九日全上

明治十七<sup>甲</sup> 申年三月廿六日全上

明治十九<sup>丙</sup> 戌年二月廿六日全上

天保八<sup>丁</sup> 酉年八月廿五日 出生

安政二<sup>乙</sup> 卯年九月一日 全前

安政六<sup>巳</sup> 未年七月四日 全前

元治元<sup>甲</sup> 子年十月十一日 全前

明治十二<sup>乙</sup> 卯年十一月廿八日出生

全 十五<sup>壬</sup> 午年十一月九日出生

菊池武夫

同 猪智

同 長女<sup>カキ</sup> 笹

同 二女<sup>アヲ</sup> 貞

同 三女<sup>アヲ</sup> 貞

母 八木橋氏<sup>明十九</sup> 菊池多代<sup>五〇</sup>

妹 全 惠機 三三二

妹 全 波 二二八

妹 全 澄<sup>スミ</sup> 二二三

全 菊池 薫

全 啓曆

明治廿年三月二九日渡ル

(朱書) 整理公債証書五分利付拾貳枚

(自分記名) 一額面五百円 貳枚

(朱書) 以号第四七六卷

(朱書) 以号第四七六式

(自分記名) 一額面百円 拾枚

(無記名) 廿年十月一日請取 貳枚

以号第式四九五ヨリ第式五〇四ニ至ル及  
 八ヨリ第四四六〇九ニ至ル  
 (朱書)  
 (加筆)(無記名)(加筆)  
 (同号)(第四四六〇〇)  
 裏面ニ続ク

丙以号五四五八番 (抹消・訂正)  
 丙以号四壹(四)(七)六番 (抹消)  
 同 号四壹(四)七七番 (抹消)  
 4,177 4,176 5,458  
 額面七百円 此利子一ヶ年四拾九円  
 五月式拾四円五拾銭  
 十一月 同上  
 当籤整理ニ変ス

日本鉄道会社株券

甲第七八号	第二回発行	壹株	四枚
乙第九式五号	全	壹株	壹枚
乙第九式六号	全	壹株	壹枚
甲第八七号	第三回発行	壹株	壹枚

碓氷馬車鉄道会社株券 参拾枚

第千三百五十番ヨリ第千三百七十九番ニ至ル  
 ゐち名前

宛 円 十 五 株 壹